

【表紙】

【提出書類】 有価証券届出書の訂正届出書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年12月5日

【会社名】 ビー・ピー・シー・イー・エス・エー  
(BPCE S.A.)

【代表者の役職氏名】 ローランド・シャボンネル  
(Roland Charbonnel)  
資金調達・投資家向け広報部門 取締役  
(Director of Group Funding and Investor Relations  
Department)

【本店の所在の場所】 フランス国パリ市75013ピエール・メンデ・フランス通り  
50番地  
(50 avenue Pierre Mendès-France  
75013 Paris, France )

【代理人の氏名又は名称】 弁護士 梅津 立

【代理人の住所又は所在地】 東京都港区六本木1丁目6番1号 泉ガーデンタワー  
アンダーソン・毛利・友常法律事務所

【電話番号】 03(6888)1000

【事務連絡者氏名】 弁護士 大高 利通  
同 出口 香央里

【連絡場所】 東京都港区六本木1丁目6番1号 泉ガーデンタワー  
アンダーソン・毛利・友常法律事務所

【電話番号】 03(6888)1000

【届出の対象とした募集有価証券の種類】 社債

【届出の対象とした募集金額】 ビー・ピー・シー・イー・エス・エー  
第1回円貨社債(2012):50億円(予定)  
ビー・ピー・シー・イー・エス・エー  
第2回円貨社債(2012):50億円(予定)  
ビー・ピー・シー・イー・エス・エー  
第1回変動利付円貨社債(2012):50億円(予定)

【安定操作に関する事項】 該当なし

【縦覧に供する場所】 該当なし

## 1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

平成24年11月28日付をもって提出した有価証券届出書の記載事項のうち手取金の使途に変更が生じたのでその点を下記のとおり訂正するとともに、第3四半期の情報を追加するため本訂正届出書を提出するものであります。また、本訂正届出書の提出に併せて、添付書類のうち、在職証明書を新たに追加するとともに、既に有価証券届出書に添付済みの在職証明書及び委任状の和訳を差し替えいたします。

## 2【訂正事項】

### 第一部 証券情報

#### 第1 募集要項

##### 2 新規発行による手取金の使途

##### (2) 手取金の使途

### 第二部 企業情報

#### 第5 提出会社の状況

##### 1 株式等の状況

##### (1) 株式の総数等

##### 株式の総数

##### 発行済株式

##### 4 役員の状況

##### (1) 取締役会

### 第三部 提出会社の保証会社等の情報

#### 第2 保証会社以外の会社の情報

##### 3 継続開示会社に該当しない当該会社に関する事項

##### (7) 経理の状況

### 添付書類

- ・在職証明書（原文及び和訳）の追加
- ・添付済在職証明書及び添付済委任状（和訳）の差し替え

## 3【訂正箇所】

訂正を要する箇所および訂正した箇所には下線を付しております。

## 第一部【証券情報】

### 第1【募集要項】

#### 2【新規発行による手取金の使途】

##### (2)【手取金の使途】

<訂正前>

本社債の発行による差引手取額は、当行により直ちに一般的な事業目的(当行グループの資金調達を確実なものとすることを含むが、これに限られない。)に使用される予定である。

<訂正後>

本社債の発行による差引手取額は当行の貸付、信用供与、投資その他銀行業務にいずれも2013年度に随時充当される。

## 第二部【企業情報】

### 第5【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

<訂正前>

(2011年12月31日現在)

授權株数(株)	発行済株式総数	未発行株式数
31,148,464	31,148,464	該当なし

<訂正後>

(2012年9月30日現在)

授權株数(株)	発行済株式総数	未発行株式数
31,148,464	31,148,464	該当なし

##### 【発行済株式】

<訂正前>

(前略)

#### 2011年12月31日現在の株式資本

(後略)

<訂正後>

(前略)

#### 2012年9月30日現在の株式資本

(後略)

## 4【役員の状況】

## (1) 取締役会

&lt; 訂正前 &gt;

(前略)

## 取締役会

(中略)

ジャン＝リュック・ベルニュ(2011年9月19日まで)

1948年10月23日生まれ

2011年9月19日任期終了

## BPCE取締役会メンバー - 最高人事責任者

会長：AFPA\*\* (アソシアシオン・プール・ラ・フォルマシオン・プロフェシオネル・デ・アデュルト)、ANACT\*\* (アジャンス・ナショナル・プール・ラメリオラシオン・デ・コンディシオン・ドゥ・トラバイユ)

取締役：ナティクシス・アントレパーニュ

## 過年度における12月31日現在の役職

2010年	2009年	2008年	2007年
BPCE取締役会メンバー - 最高人事責任者	BPCE取締役会メンバー - 最高人事責任者	会長および最高経営責任者： プジョー・シトロエン・オートモビル	会長および最高経営責任者： プジョー・シトロエン・オートモビル
会長：AFPA (アソシアシオン・プール・ラ・フォルマシオン・プロフェシオネル・デ・アデュルト)、ANACT (アジャンス・ナショナル・プール・ラメリオラシオン・デ・コンディシオン・ドゥ・トラバイユ)	会長：AFPA (アソシアシオン・プール・ラ・フォルマシオン・プロフェシオネル・デ・アデュルト)	会長：AFPA (アソシアシオン・プール・ラ・フォルマシオン・プロフェシオネル・デ・アデュルト)	人事取締役：PSAプジョー・シトロエン・グループ(および現在総合運営委員会として知られる経営執行委員会メンバー)
取締役：ナティクシス・アントレパーニュ		人事取締役：PSAプジョー・シトロエン・グループ(および現在総合運営委員会として知られる経営執行委員会メンバー)	

\*\* 当グループ外の会社

&lt;訂正後&gt;

(前略)

## 取締役会

(中略)

ジャン＝リュック・ベルニュ(2011年9月19日まで)

1948年10月23日生まれ

2011年9月19日任期終了

## BPCE取締役会メンバー - 最高人事責任者

会長：AFPA\*\* (アソシアシオン・プール・ラ・フォルマシオン・プロフェシオネル・デ・アダルト)、ANACT\*\* (アジャンス・ナショナル・プール・ラメリオラシオン・デ・コンディシオン・ドゥ・トラバイユ)

取締役：ナティクシス・アントレパーニュ

## 過年度における12月31日現在の役職

2010年	2009年	2008年	2007年
BPCE取締役会メンバー - 最高人事責任者	BPCE取締役会メンバー - 最高人事責任者	会長および最高経営責任者：ブジョー・シトロエン・オートモビル	会長および最高経営責任者：ブジョー・シトロエン・オートモビル
会長：AFPA (アソシアシオン・プール・ラ・フォルマシオン・プロフェシオネル・デ・アダルト)、ANACT (アジャンス・ナショナル・プール・ラメリオラシオン・デ・コンディシオン・ドゥ・トラバイユ)	会長：AFPA (アソシアシオン・プール・ラ・フォルマシオン・プロフェシオネル・デ・アダルト)	会長：AFPA (アソシアシオン・プール・ラ・フォルマシオン・プロフェシオネル・デ・アダルト)	人事取締役：PSAブジョー・シトロエン・グループ(および現在総合運営委員会として知られる経営執行委員会メンバー)
取締役：ナティクシス・アントレパーニュ		シトロエン・グループ(および現在総合運営委員会として知られる経営執行委員会メンバー)	

\*\* 当グループ外の会社

## 2012年11月14日付けプレスリリース：グループBPCE取締役会長として更に4年間の再任が決定したフランソワ・ペロル

BPCEの監査役会は、2012年11月14日にイヴ・トゥーブランを議長として開催された会議において、フランソワ・ペロルのBPCE取締役会長としての任期を4年間更新することを全会一致で決定した。

よって、監査役会は、次の監査役会が開催される11月21日に新しい取締役会を設置するよう同氏に要求した。

フランソワ・ペロルは、HECスクール・オブ・マネジメントおよびパリ・インスティテュート・オブ・ポリテクニカル・サイエンス(パリ政治学院)を卒業し、また、高級官僚養成所である国立行政学院(ENA)の学生であった。同氏は1990年にジェネラル・インスペクトレート・オブ・ファイナンスにて監査人としてのキャリアを開始した。1994年にインターデパートメンタル・コミッション・フォー・インダストリアル・リストラクチャリング(CIRI)の副秘書役に任命された。1996年にフランス財務省に移り金融市場事務局長としての責務を担っている。

1999年から2001年にかけては、パリ・クラブの事務局長として債務国との国際交渉を担当した。2001年、フランスの経済・財政・産業大臣フランシス・メール氏の副主席補佐官に任命される以前は、事業融資とフランス財務省の発展を担当する局長補佐となり、2004年にニコラ・サルコジ氏が国務大臣および経済・財政・産業大臣に就任するまでその役職に就いていた。2005年、投資銀行ロスチャイルド&シーのゼネラル・パートナーとなった。

2007年5月、フランス共和国大統領府の副長官に任命され、経済問題を担当した。

2009年3月2日から8月1日までケス・ナショナル・デ・ケス・デパーニュ(CNCE)の取締役会長およびバンク・フェデラル・デ・バンク・ポピュレール(BFBP)の最高経営責任者を務めた。2009年8月1日、CNCEと

BFBPの合併により設立されたグループBPCEの取締役会長となった。

オリビエ・クラン氏は、BPCEの取締役を退任した。

2012年10月3日付で、オリビエ・クラン氏は、BREDポピュレール銀行のCEOの承認を受けて、BPCEの取締役を退任した。

## 第三部【提出会社の保証会社等の情報】

### 第2【保証会社以外の会社の情報】

#### 3【継続開示会社に該当しない当該会社に関する事項】

##### (7) 経理の状況

<訂正前>

(前略)

その他

第二部第6「経理の状況」3「その他」を参照のこと。

<訂正後>

(前略)

その他

第二部第6「経理の状況」3「その他」を参照のこと。

2012年度第3四半期のグループBPCEの経営成績

[次へ](#)

## グループBPCE：2012年度第3四半期の経営成績

### 堅調な純利益と順調な中核事業ラインの経営成績

#### 当グループの財務体質は引き続き安定して強化された

・ 2012年第3四半期において、親会社の持分所有者に帰属する当期純利益は639百万ユーロで、2011年第3四半期と比べ92.5%増加した<sup>1</sup>。2012年度第3四半期において、当グループ自身の債務の再評価を除いた親会社の持分所有者に帰属する当期純利益は726百万ユーロであった。

> 中核事業ラインの収益：5十億ユーロ、2011年度第3四半期と比べ2.7%増。

> 中核事業ラインの営業費用：3.4十億ユーロ、2011年度第3四半期と比べ2.5%増<sup>2</sup>、2012年上半年期と比べ2.8%減<sup>2</sup>

> リスクコスト：447百万ユーロ、2011年度第3四半期と比べ13.5%増(ギリシャの影響を除く)。経済状況の低迷が反映されている。

> 2012年9月30日に終了した9ヶ月における親会社の持分所有者に帰属する当期純利益は順調であり、合計1,972百万ユーロに達し、2011年9月30日に終了した9ヶ月<sup>3</sup>と比べ12.0%減であった。これは、当グループ自身の債務(2,094百万ユーロ、2011年9月30日に終了した9ヶ月<sup>4</sup>と比べ3.4%減)の再評価を除く。

・ 新たなバーゼル3規制枠組みの実施前に財務体質がさらに強化された。

> 適正自己資本：コアTier-1比率は2012年度第2四半期と比べ40ベース・ポイント増の10.5%<sup>5</sup>、9ヶ月間では140ベース・ポイント増。

> 2013年度末までに当グループの法人向け資金調達要件を減らすという目標の104%<sup>6</sup>を既に達成している。この目標は、2012年10月1日に実施された非課税貯蓄性預金およびLDD通帳式貯蓄口座の預金上限の引き上げにもかかわらず確認されている。

> 2012年9月30日現在の流動性準備金は150十億ユーロ(9ヶ月で40十億ユーロ増)

・ 営業効率

> 2014年度末までに300百万ユーロを超える総コストの削減を目標としたナティクシスの新たな営業効率プログラムの実施。

> 2012年9月30日現在当グループ全体で創出されたコスト・シナジーは835百万ユーロ。

・ 中核事業ラインのビジネス・モデルの継続的採用

> ポピュレール銀行およびケス・デパーニュ(貯蓄銀行)のリテールネットワーク：オン・バランスシートの預金口座<sup>7</sup>は前年度比7.9%増。顧客基盤の拡大基調が継続。

> ナティクシス：希少資源の消費を減らすために策定された追加プログラムは2012年度第3四半期末で実質的に完了した。ユーロ圏の緊張が緩和されたことにより中核事業ラインに商業的な活力が生じている。

<sup>1</sup> 2011年第3四半期はギリシャ国債の減損による影響を受けた。

<sup>2</sup> 新たな財政措置を除く。

<sup>3</sup> フォンシアおよびユーロシクの売却を計上したPro formaベース。

<sup>4</sup> 2011年6月および7月のフォンシアおよびユーロシクの売却を計上したPro formaベース。

<sup>5</sup> 2012年9月30日現在の見積。

<sup>6</sup> 中間目標である30十億ユーロと比較した実績。

<sup>7</sup> 一元管理される貯蓄を除く。

> クレディ・フォンシエール：2011年9月30日に終了した9ヶ月と比べ10%のコスト削減。積極的なバランスシート管理：国際ポートフォリオからの売却のペースを速め（2012年度第3四半期は約1十億ユーロ）、2012年10月に不動産貸付残高の証券化により1十億ユーロを譲渡。

2012年11月14日、BPCEの監査役会はイヴ・トゥーブランを議長とする会議を開催し、当グループの2012年度第3四半期および2012年9月30日に終了した9ヶ月の財務書類を審査した。

グループBPCE取締役会長フランソワ・ペロルは以下のように述べた。

「当四半期の業績は当グループ特有の強みを反映している。我々の銀行業務純収益が当四半期において総額5十億ユーロに達し、非常に競争が激しい環境の中2.7%もの優れた成長を見せていることから考えると、中核事業ラインの強みが反映されている。また、当グループの適正自己資本が40ベース・ポイント増加しコアTier-1資本が10.5%となり、2012年度のホールセール資金調達プログラムが既に全額完了し、我々の流動性準備金が9ヶ月間に40十億ユーロ増加して現在は150十億ユーロであることから、当グループの財務基盤の強さも反映されている。グループBPCEは、経済環境および財務環境が厳しさを増す中で、顧客へのサービス提供を継続するための優れたポジションにある。」

### 第3四半期および2012年9月30日に終了した9ヶ月におけるグループBPCEの連結経営成績

#### 2012年度第3四半期の経営成績

当グループは、新たなバーゼル3規制枠組みの実施前に適正自己資本を強化することで、規制環境の変動に適応するための原動力を効率的に追求している。現在のコアTier-1比率は10.5%<sup>8</sup>で、2012年度9月30日に終了した9ヶ月間で140ベース・ポイント増加した。

グループBPCEの中核事業ラインは、フランス経済が低成長にある時期における銀行規制の変更に引き続き適応しており、同時に、2010～2013年度の戦略プラン「トゥゲザー（Together）」に従い顧客基盤の拡大に努めている。

国内のリテール銀行業務ネットワークは、新規預金を獲得するための原動力を継続し、オン・バランスシート貯蓄預金が2012年度第3四半期において前年度比7.9%増加した（一元管理される貯蓄を除く）。中核事業ラインの業績は順調で、商業活動の活力に支えられた。

商業銀行業務および保険事業部門による収益は、停滞するフランスの経済成長と比べて順調であり、ナティクシスの法人向け銀行業務部門の収益は急激な改善を見せて2011年度第3四半期と比べ24.7%増加し、収益は合計で686百万ユーロとなった。

全体的に見て、当グループの中核事業ラインによる収益は、2012年度第3四半期中、前年度同期比2.7%増である。

2012年9月30日現在、当グループの中核事業ライン<sup>9</sup>によりもたらされた銀行業務純収益（うち97%がフランス）のうち、リテール銀行業務部門の割合は71%を占め、税引前利益（うち98%がフランス）の71%に寄与した。

2010～2013年度の戦略プランである「トゥゲザー（Together）」は引き続きグループBPCEの事業モデルに弾みを与え、営業効率の面で新たな進展を促進している。2012年9月30日現在、ナティクシスとポピュラー銀行とケース・デパーニュ（貯蓄銀行）のリテール銀行業務ネットワークにより生み出されたシナジーにより、戦略プランにおいて線形化された目標を上回る総額590百万ユーロの追加銀行業務純収益がもたらされたが、これは特に融資関連事業（消費者金融、リース、ならびに連帯保証および保証）の業績が順調であったことに起因する。

ナティクシスは、現在から2014年度末までの間に300百万ユーロを超える会社のコストを削減することを目標とした新たな営業効率プランを開始している。

<sup>8</sup> 2012年9月30日現在の見積。

<sup>9</sup> 「その他の事業」のワークアウト・ポートフォリオ管理を除く。

グループBPCE全体としては、2012年9月30日現在でコスト・シナジーが合計835百万ユーロに達しているが、これは特に当グループの第三者コストを引き続き合理化したことおよびIT資源のプーリングによるものである。クレディ・フォンシエールは中期プランの実施を継続しており、2012年9月30日に終了した9ヶ月において前年度同期比10%コストを削減し、国際ポートフォリオからの売却のペースを加速している。

## 適正自己資本および流動性：当グループの新しい環境への適応

グループBPCEは、財務力を強化するための促進力を追求しており、適正自己資本が2012年6月30日と比べ40ベース・ポイント改善した。パーゼル2.5に基づく中核Tier-1比率は、2012年9月30日現在で10.5%<sup>10</sup>であった。

2012年9月30日現在の中核Tier-1資本は合計40.1十億ユーロで、グループBPCEが最初に設立された2009年6月の23.3十億ユーロから増加した(既に全額返済された、フランス政府から受けた一時的な資本投入を除く)。

グループBPCEの財務体質により、当グループはパーゼル3資本要件に従い、2013年度に9%の普通株式Tier-1比率を達成するという目標を確実にし、これを一時的な手段を用いずに行うことができる<sup>11</sup>。

当グループは引き続き、9月30日現在で382十億ユーロのリスク加重資産(前四半期末と比べ低いレベル)に対する厳格な管理を行う。2012年度第2四半期末の経営成績と同様に、商業銀行業務および保険事業部門の寄与度は72%であった。

グループBPCEは自ら、2011年6月末から2013年度末までに流動性要件を25~35十億ユーロ削減するという目標を設定した。2012年9月30日現在、ホールセール資金調達要件の31.1十億ユーロ削減により、この目標の104%<sup>12</sup>を達成したことから、当グループは事前に定められた目標に従いスケジュールより早く好調な流動性ポジションを享受することが可能となっている。さらに、当グループは、2012年10月1日から実施された非課税貯蓄性預金およびLDD通帳式貯蓄口座の預金上限の引き上げにもかかわらず、2013年度後半の目標達成も確かなものになっている。

ポピュラー銀行およびケス・デパーニュ(貯蓄銀行)のリテール銀行業務ネットワークにおけるオン・バランスシート預金は引き続き増加し、第3四半期の預貸率は115%<sup>13</sup>であった。

## 流動性および短期リファイナンス

2012年9月末現在の短期リファイナンスの残高は117十億ユーロ<sup>14</sup>であった。

2012年9月末現在の流動性準備金は150十億ユーロで、うち105十億ユーロが中央銀行のリファイナンスに適格であるが、短期間においてかかる状態にある利用可能資産で構成される。最後に、2012年9月末現在、流動性資産のうち合計45十億ユーロが中央銀行に預託された。

2012年9月30日現在、流動性準備金は短期リファイナンスの残高比で128%相当の割合を有している。

## 中長期のリファイナンス：2012年度のプログラムはすべて完了し、平均満期は6.8年

BPCEの中・長期のリファイナンスプールに関して、18十億ユーロのプログラムはすべて2012年11月9日に完了し、平均満期は5.7年であった。

<sup>10</sup> 2012年9月30日現在の見積。

<sup>11</sup> 繰延税金資産を計上するために再表示した後。

<sup>12</sup> 中間目標である30十億ユーロと比較した実績。

<sup>13</sup> 2012年9月30日現在の見積。

<sup>14</sup> 2012年9月30日現在の見積。

クレディ・フォンシエールの中長期リファイナンスプールに関する限りでは、プログラム(新たに合計6.5十億ユーロに修正)は2012年11月9日に資金調達プログラムの目標比123%の割合で完了し、平均満期9.3年で調達された資金は8十億ユーロであった。取得した資金のうち、2012年度資金調達プログラムの目標を上回った部分は2013年度のプログラムに帰属する。

グループBPCEの大手債券市場を利用する機会を享受する能力により、2012年11月9日現在で26十億ユーロの中長期の資金調達を行うことが可能となった。無担保債券(ケス・デパーニュ(貯蓄銀行)およびポピュレール銀行のリテール銀行業務ネットワークを通じて預託された2.9十億ユーロを含めた13.1十億ユーロ)とカバード・ボンド(12.9十億ユーロ)との間で適切なバランスを維持している。

21十億ユーロの法人向け資金調達プログラムは、目標比110%の割合で完了し、ネットワーク資金調達プログラムの目標比83%(3.5十億ユーロに修正)が2012年11月9日に完了した。

平均満期は2011年10月31日に終了した10ヶ月間の4.7年から伸びて6.8年となり、平均ミッドスワップ・レートは135ベース・ポイント増である。

## 2012年度の第3四半期および2012年9月30日に終了した9ヶ月の連結経営成績

### 2012年度第3四半期の経営成績

2012年度第3四半期のグループBPCEの銀行業務純収益は、2011年度同期比3%減の5,313百万ユーロであった。グループ自身の債務の再評価を除くと、銀行業務純収益は5%増加している。

中核事業ラインは、営業活動のダイナミズムに支えられ好業績となった。

グループの中核事業ライン<sup>15</sup>が計上した収益は、2011年度第3四半期比2.7%増となる5,044百万ユーロである。市況に鑑みれば、商業銀行業務および保険事業部門は順調な回復を示した。ナティクシスのホールセール・バンキングの活動は急速に回復している。

グループの営業費用は、新たな財政措置の影響を除くと3.3%増加し、合計で3,926百万ユーロである。中核事業ラインの営業費用は、2011年度第3四半期の特に低い水準と比べて2.5%の増加(財政措置を除く)となっている。新たな財政措置の影響を計上するために修正再表示を行った2012年度第2四半期と比べると、中核事業ラインの営業費用は2.8%の減少となっている。

グループ全体の費用/収益比率は73.9%である。中核事業ラインの比率は68.0%である。

営業総利益は、2011年度第3四半期比22%減の1,387百万ユーロである。グループの中核事業ラインの寄与は1,613百万ユーロであり、2011年度第3四半期と比べて安定している。

リスクコストは、2011年度第3四半期比61.6%減の447百万ユーロである。ただし、2011年度第3四半期に計上したギリシャ国債の減損を除くと、この項目は13.5%増加したことに留意しなければならない。

グループの中核事業ラインのリスクコストは、2011年度第3四半期の水準と同等の低い水準(28ベース・ポイント<sup>16</sup>)まで回復した。

中核事業ラインのリスクコストは、2011年度第3四半期比11.3%減の385百万ユーロである。商業銀行業務および保険事業部門のリスクコストは正常な水準に回復しつつあるが、ナティクシスの中核事業ラインのリスクコストは増加している。

15 グループBPCEの中核事業ラインは、(特にポピュレール銀行およびケス・デパーニュ(貯蓄銀行)のリテール・バンキング・ネットワーク、クレディ・フォンシエール・ドゥ・フランス、バンク・パラティンヌおよびBPCEエンテルナショナル・エ・ウトウル=メールを擁する)商業銀行業務および保険事業部門、ホールセール・バンキング部門、投資ソリューション部門ならびに専門的金融サービス部門(ナティクシス)である。

16 2011年6月および7月におけるフォンシアおよびユーロシクの売却を計上するための試算。

グループBPCEの欧州周辺国<sup>17</sup>のソブリン債に対するエクスポージャーは、依然として限定的である。バンキング・ポートフォリオに属する金融機関のネット・エクスポージャー合計は3.9十億ユーロであり、グループBPCEのコア Tier-1資本の10%未満である。ギリシャ、アイルランド、ポルトガル、スペインおよびキプロスに関するバンキング・ポートフォリオに属する機関のソブリン債に対するエクスポージャー総額は、約0.3十億ユーロである。

保険会社の欧州周辺国に対するネット・エクスポージャーは、合計で261百万ユーロに制限されている。

バンキング・ポートフォリオに属するグループの金融機関の救済策の対象国に対するエクスポージャー総額は、ギリシャについては0.4十億ユーロ(そのほぼすべてが企業に係る)、アイルランドについては1.5十億ユーロ(企業に係る0.6十億ユーロを含む)、ポルトガルについては2.3十億ユーロ(企業に係る0.2十億ユーロを含む)である。

親会社の持分所有者に帰属する当期純利益は、ギリシャ国債の減損の影響を受けた2011年度第3四半期の332百万ユーロから増加し、639百万ユーロである。中核事業ラインの当期純利益は、2012年度第3四半期は756百万ユーロであり、引き続き安定している。

グループのROEは5.2%である。中核事業ラインのROEは9%である。

### 2012年9月30日に終了した9ヶ月の経営成績

2012年9月30日に終了した9ヶ月の銀行業務純収益は、2011年度同期比4.6%減の16,434百万ユーロである。グループ自身の債務の再評価を除くと、この項目の減少は2.6%に制限される。中核事業ラインが計上した銀行業務純収益は2011年度同期比で1.3%減少し、合計で15,541百万ユーロである。中核事業ラインが計上した収益は、フランス経済の伸び悩みで悪化した規制環境の変化に適応するよう採られた措置の影響を受けている。

営業費用は2.1%増加し、合計で11,778百万ユーロとなった(新たな財政措置を除くと、増加はプラス1.2%にとどまる)。中核事業ラインの営業費用は10,383百万ユーロであり、2.5%増となった(新たな財政措置を除くと1.8%にとどまる)。

営業総利益は合計で4,656百万ユーロであり、18.3%減となった。グループの中核事業ラインの寄与は、5,158百万ユーロである。

リスクコストは、2011年度同期比25.5%減の1,555百万ユーロである。ギリシャ国債の減損の影響を除くと、リスクコストは合計で25.9%増加した。この増加(中核事業ラインに反映される(25.3%増))は、経済環境が悪化した結果である。

親会社の持分所有者に帰属する当期純利益は1,972百万ユーロであり12.0%<sup>1</sup>減少したが、不利な経済環境に鑑みればこの減少は依然として限定的である。

グループおよび中核事業ラインのROEは、それぞれ5.4%および9%である。

### ワークアウト・ポートフォリオ管理 (GAPC)

GAPCは、親会社の持分所有者に帰属する当期純利益に重大な影響を及ぼすことなく残存案件に限定して運用する資産規模を縮小させるロードマップを引き続き実施している。本年度第3四半期には総額0.6十億ユーロ相当の資産が売却され、2012年9月30日に終了した9ヶ月における売却の総額は2.6十億ユーロとなった。

資産の評価額は、特に米国において2012年度第3四半期に改善した。

リスク加重資産は、2009年6月以降52%減少した。

<sup>17</sup> 2011年6月および7月におけるフォンシアおよびユーロシクの売却を計上するための試算。

## 2012年度第3四半期のグループBPCEの連結経営成績

百万ユーロ	2012年度第3四半期	2012年度第3四半期/2011年度第3四半期 <sup>18</sup>	中核事業ライン* 2012年度第3四半期	2012年度第3四半期/2011年度第3四半期
銀行業務純収益 (自身の債務の再評価を除く)	5,313	-3.0% +5.0%	5,044	+2.7%
営業費用 (新たな財政措置を除く)	-3,926	+6.1% +3.3%	-3,431	+4.7% +2.5%
営業総利益	1,387	-22.0%	1,613	-1.3%
費用/収益比率	73.9%	+6.3ポイント	68.0%	+1.3ポイント
リスクコスト (ギリシャ国債の減損を除く)	447	-61.6% +13.5%	-385	-11.3%
税引前利益	985	+68.1%	1,278	+4.4%
親会社の持分所有者に帰属する当期純利益	639	+92.5%	756	-1.2%
ROE	5.2%	+3.1ポイント	9%	-

グループBPCEの中核事業ラインは、(特にポピュレール銀行およびケス・デパーニュ(貯蓄銀行)のリテール銀行業務ネットワーク、クレディ・フォンシエール・ドゥ・フランス、バンク・パラティンヌおよびBPCEエンテルナショナル・エ・ウトウル=メールを擁する)商業銀行業務および保険事業部門、ホールセール・バンキング部門、投資ソリューション部門ならびに専門的金融サービス部門(ナティクシス)である。

18 2011年6月および7月におけるフォンシアおよびユーロシクの売却を計上するための試算。

## 2012年9月30日に終了した9ヶ月におけるグループBPCEの中核事業ラインの連結経営成績

百万ユーロ	2012年9月30日に終了した9ヶ月	2012年9月30日に終了した9ヶ月/2011年9月30日に終了した9ヶ月	中核事業ライン*	2012年9月30日に終了した9ヶ月/2011年9月30日に終了した9ヶ月
銀行業務純収益 (自身の債務の再評価を除く)	16,434	-4.6% -2.6%	15,541	-1.3%
営業費用 (新たな財政措置を除く)	-11,778	+2.1% +1.2%	-10,383	+2.5% +1.8%
営業総費用	4,656	-18.3%	5,158	-8.2%
費用/収益比率	71.7%	+4.7ポイント	66.8%	+2.5ポイント
リスクコスト (ギリシャ国債の減損を除く)	-1,555	-25.5% +25.9%	-1,319	+25.3%
税引前利益	3,253	-12.2%	3,997	-15.2%
親会社の持分所有者に帰属する当期純利益	1,972	-12.0%	2,347	-19.0%
ROE	5.4%	-1.2ポイント	9%	-2ポイント

2011年6月および7月におけるフォンシアおよびユーロシクの売却を計上するための試算

## 商業銀行業務および保険事業：不利な事業環境の中で確認された営業の活力

商業銀行業務および保険事業の中核事業ライングループ、ポピュレール銀行およびケス・デパーニュ（貯蓄銀行）のリテール銀行業務ネットワークの活動、不動産金融（主としてクレディ・フォンシエール）の活動ならびに保険事業、海外事業および「その他のネットワーク事業」の活動（特にBPCEエンテルナショナル・エ・ウトウル=メールおよびバンク・パラティヌ）

2012年度第3四半期、グループBPCEの商業銀行業務および保険事業部門は、引き続き素晴らしい営業の活力を示している。ポピュレール銀行およびケス・デパーニュ（貯蓄銀行）のリテール銀行業務ネットワークで遂行されている、さらなるバンキング・サービスの利用を顧客に促すことを目的とする方針は、すべての優先顧客区分について顧客基盤の拡大に繋がっている。

新規の預金流入に関する過度な競争環境の中、ポピュレール銀行およびケス・デパーニュ（貯蓄銀行）のネットワークは、オン・バランスシート貯蓄預金の前年度比7.9%<sup>19</sup>増を達成した。

フランス経済への資金供給を支えるBPCEのコミットメントは、2012年9月30日時点において貸付金残高の6.1%増に繋がった。

## 商業銀行業務および保険事業：2012年度第3四半期の経営成績

新たな規制要件および低金利を特徴とした環境に適応するという現状のもと、グループBPCEの商業銀行業務および保険事業部門の2012年度第3四半期の収益は、2011年度第3四半期比1.7%減の3.6十億ユーロとなった（住宅購入貯蓄制度に関する引当金の変更を除く）。2012年9月30日に終了した9ヶ月の銀行業務純収益は、2011年度比1.7%減の11十億ユーロ（住宅購入貯蓄制度に関する引当金の変動を除く）であった。

ポピュレール銀行のネットワークが計上した銀行業務純収益は1.5十億ユーロ（住宅購入貯蓄制度に関する引当金の変動を除く）であり、3.9%減少した。

ケス・デパーニュ（貯蓄銀行）のネットワークの銀行業務純収益は1.7十億ユーロ（住宅購入貯蓄制度に関する引当金の変動を除く）であり、2011年度第3四半期比で2.1%増加した。

ポピュレール銀行およびケス・デパーニュ（貯蓄銀行）のネットワークの正味金利マージンは、新たな規制上の制約への適応がポピュレール銀行に多大な影響を与えたにもかかわらず、適切に維持されている（2.2%）<sup>20</sup>。

ポピュレール銀行およびケス・デパーニュ（貯蓄銀行）のネットワークの手数料は、2.5%の小幅な減少となった。この減少は、主としてポピュレール銀行については金融貯蓄事業の取扱高の減少によるものであり、ケス・デパーニュ（貯蓄銀行）については一元管理される貯蓄で計上した手数料の減少によるものである。

営業費用は2.5十億ユーロであり、特に低かった2011年度第3四半期と比べて4.7%の増加となった。新たな財政措置の影響を除くと費用は1.7%増加したが、2012年度第2四半期比では2.4%減少した（新たな財政措置の影響を除く）。

2012年度第3四半期のリスクコストは292百万ユーロであり、2011年度第3四半期比で22.3%減となった。ポピュレール銀行およびケス・デパーニュ（貯蓄銀行）のネットワークのリスクコストは、集団引当金の多額の計上がなされた2012年度第2四半期と比べて減少した。

<sup>19</sup> 一元管理される貯蓄を除く。

<sup>20</sup> 住宅購入貯蓄制度に関する引当金の変動を除く。

2012年9月30日に終了した9ヶ月のリスクコストは17.6%増加し、1,083百万ユーロとなった。

2012年度第3四半期の営業総利益は1,126百万ユーロであり、費用/収益比率は68.7%である。

商業銀行業務および保険事業部門の純利益は563百万ユーロであり、2011年度第3四半期比で11.3%減となった。

2012年9月30日に終了した9ヶ月の純利益は1,697百万ユーロであり、2011年度比で21.5%減となった。

## ポピュレール銀行

ポピュレール銀行のネットワークは、19のポピュレール銀行(CASDENおよびクレディ・コオペラティブならびにこれらの子会社であるクレディ・マリティーム・ミュテュエルおよび共同保証会社を含む)で構成される。

2012年度第3四半期、ポピュレール銀行のネットワークは、貸付金残高の伸びが需要低迷で鈍化する中においてオン・バランスシート貯蓄が増加したことを確認した。

### 顧客基盤

ポピュレール銀行のネットワークは、顧客基盤の拡大に向けた取り組みを継続すると同時に、個人顧客セグメントとの関係を強化している。バンキング・サービスを利用している個人稼働顧客数は、2012年度第3四半期においては前年度同期比で2.8%増となり、バンキング・サービスおよび保険商品を利用している稼働顧客については4.1%増となった。「若年層顧客」セグメントについては、学生向けの新商品の販売が開始され、関係する広告キャンペーンがこれを後押しした。

プロ顧客セグメントにおいては、ポピュレール銀行は、商人および小売業者が商品およびサービスを直接オンラインで提供または販売できるオンライン・ショップ・ウィンドウまたはオンライン・ストアにアクセスできるようにするデジタル・ソリューションであるwww.DirectetProche.frを立ち上げた。フランチャイズ市場において長年リーダーであるポピュレール銀行のネットワークは、フランチャイザーの間では57%、フランチャイジーの間では25%の普及率を得てその地位を確固たるものとしている。

顧客関係の強化も法人顧客セグメントにおいて見られ、2012年度第3四半期には稼働顧客が2011年度第3四半期比で2.4%増加した。

### 貯蓄預金

新規の預金流入は引き続きオン・バランスシート貯蓄関連商品を支えている。預金総額は、特に通帳式貯蓄口座(13.8%増)、要求払預金(7.4%増)および定期口座(6.6%増)に牽引されて前年度比で7%増となった(一元管理される貯蓄を除く)。

金融貯蓄については、ミューチュアル・ファンドはより速いペースで減速しているが(7.7%減)が、ライフファンドは縮小する市場においても引き続き安定している。

### 貸付金残高

顧客のニーズに応えることに全力を注いでいるポピュレール銀行は、フランス経済に対して引き続き積極的な支援を行っている。貸付金残高は前年度比で4.1%増加し、2012年9月30日時点では総額158.9十億ユーロとなっている。

過去12ヶ月間に4.8%増加した住宅資金貸付残高は維持されており、2012年9月30日に終了した9ヶ月の新規貸付実行額は29.2%減にとどまった。

厳しい事業環境の中、消費者金融は新規貸付実行額の4.5%増を達成した。

需要低迷を特徴とした景気の著しい不透明さを背景に設備資金貸付残高は18.8%減少したが、貸付金残高の全体的な増加(2.3%増)には影響を及ぼさなかった。

### 財務成績

ポピュレール銀行のネットワークが計上した2012年度第3四半期の銀行業務純収益は1,482百万ユーロであり、2011年度同期比で4.1%減の減少となった。

営業費用は合計で1,046百万ユーロに増加した。

費用/収益比率は70.6%であり、2011年度第3四半期比で5.9%増加した。

リスクコストは117百万ユーロであり、29ベース・ポイント<sup>21</sup>増加した。

親会社の持分所有者に帰属するグループの当期純利益に対するポピュラー銀行のネットワークの寄与は、232百万ユーロである。

<sup>21</sup> 期首時点の顧客残高合計に対する年率ベース・ポイント。

## ケス・デパーニュ(貯蓄銀行)

ケス・デパーニュ(貯蓄銀行)のネットワークは、17の地方のケス・デパーニュ(貯蓄銀行)で構成される。

2012年度第3四半期は、事業活動および残高の拡大に繋がる銀行の顧客基盤の勢いがすべての対象顧客セグメントで見られる。

### 顧客基盤

ケス・デパーニュ(貯蓄銀行)が実施している、より多くの、より高度なバンキング・サービスおよび商品の利用を顧客に促す方針により、2012年度第3四半期の個人稼動顧客数は2011年度同期比で4.3%増加した。特に、バンキング・サービスを利用する主要稼動顧客数の大幅な増加(8.1%増)に牽引された。

学生を対象としたキャンペーンおよび16-17歳を対象とした魅力的な価格の新たなサービス・パッケージを年初に投入したことにより、若年層の稼動顧客数も増加している。

プロ顧客基盤の拡大も依然として力強く、2012年度第3四半期は前年度同期比で顧客数が7.4%増加した。プロ顧客を対象とした営業活動を支援するために、ケス・デパーニュ(貯蓄銀行)は、「フランチャイズ・インジケーター」が行うリサーチを基にしたバロメーター調査を開始した。その目的は、フランチャイズおよび組織化された取引ネットワークの構成員の成功と満足の度合いを示すことである。

### 貯蓄預金

預金の流入は、リテール・バンキング部門からの流入に加えて「地域の意思決定者のための銀行(Bank for Regional Decision-Makers)」の顧客の大きな寄与により、引き続き増加傾向にある。新規預金は依然としてオン・バランスシート貯蓄に集中しており、2012年9月30日時点で8.6%の年間増加率を記録した(一元管理される貯蓄を除く)。要求払預金口座について見られた力強いダイナミズムは継続しており、要求払預金口座は前年度同期比で8.9%増加したが、通帳式貯蓄口座は6%増となった。住宅購入貯蓄制度における預金の年間増加率は引き続きプラスである(4.2%増)。

しかしながら、ライフファンドが新規取引の減少にもかかわらず依然として安定しているもののミューチュアル・ファンドが特に影響を受けた(20.2%減)ことから、金融貯蓄預金は引き続き減少している。

### 貸付金残高

貸付金残高は2012年9月30日に終了する時点で前年度同期比8.7%増加した。貸付金残高は現在180.9十億ユーロである。

不動産貸付残高は、市場の拡大に対して新規貸付実行額の減少が限定的であったことから、昨年中に合計で8.7%増加した。第3四半期の新規貸付確約額は、2011年度第3四半期比で僅かに2.5%減の減少となった。不利な事業環境の中、消費者貸付残高は、新規貸付実行額を高水準で維持する取り組みを反映して引き続き増加した(年率ベースで1.8%増)。

設備資金貸付は引き続き好調に伸びている(12ヶ月間に12.3%増)。

### 財務成績

ケス・デパーニュ(貯蓄銀行)のネットワークが計上した四半期の銀行業務純収益は、2011年度第3四半期比で2.2%増加し、合計で1,649百万ユーロに達した。

営業費用は2011年度第3四半期比で5.7%の微増となり、合計で1,094百万ユーロとなった。

費用/収益比率は66.3%であり、2011年度同期比で2.2ベース・ポイント減少した。

リスクコストは117百万ユーロ、率にして27ベース・ポイント<sup>22</sup>となった。

グループの当期純利益に対するケス・デパーニュ(貯蓄銀行)のネットワークの寄与は、273百万ユーロである。

22 期首現在の顧客残高合計に対する年率ベース・ポイント

## 不動産金融

クレディ・フォンシエールは、不動産金融の事業ラインに寄与する主たる事業体である。

クレディ・フォンシエールは、2012年~2016年度の戦略的プランにおいて定められた目標に沿って、特に資産・負債の積極的な管理や経費削減により新たな市況への適応を推進している。

クレディ・フォンシエールは、国際ポートフォリオにおいて保有する有価証券の売却のペースを速めており、売却額は2012年度第3四半期に合計0.9十億ユーロにのぼり、計画当初からの売却額の合計は3.7十億ユーロとなった。第3四半期に0.3十億ユーロの債務を買い戻したことで、計画当初からの買戻額は合計2.2十億ユーロとなった。かかる買戻しおよび売却は、当四半期の銀行業務純収益に対し35百万ユーロのプラスの影響を与えた(かかる影響の純額は、セグメント情報の「その他の事業」に配分された)。

なお、2012年10月に、合計1十億ユーロを証券化したことにより、95,000件のゼロ金利ローンに相当する実行済不動産ローンの譲渡が完了したことについても留意すべきである。

経費調整計画も推進されており、2012年9月30日に終了した9ヶ月において、前年度同期比10%の経費が削減された。

急速に低迷した市場においても、商業活動は堅調に維持された。全体における新規ローンの約定は6.3十億ユーロであり、2011年9月30日に終了した9ヶ月と比べて21.3%減となった。

個人顧客への融資に関連した新規ローンの約定額は4.3十億ユーロであり、2011年9月30日に終了した9ヶ月と比べて16%減少した。2012年度第2四半期以降、初回住宅購入者むけの魅力的な価格設定方針と貸付業務の大半を維持する決定により、著しく不振であった不動産市場における下落に対抗することが可能となった。フランスの法人顧客に関する新規のローンの約定は、特に地方の公共部門によって牽引された。

グループの税引前利益に対する不動産金融の寄与分は19百万ユーロであり、2011年度第3四半期は48百万ユーロ<sup>23</sup>であった。

23 ギリシャ国債の減損分を除く。

## 保険事業

保険事業ラインは、BPCEアシュアランスおよびCNPアシュアランスに関連している。

厳しい事業環境下において、2012年度第3四半期の生命保険の保険料収入は2011年度同期比17%減少し、現在1,526百万ユーロとなっている。生命保険商品の解約ペースが減速したことで、2012年度第3四半期において0.2十億ユーロの純流出額が計上された。ユニットリンク型生命保険契約の良好なインフロー実績が、2012年9月30日に終了した9ヶ月における総流入の10%を占めたことは重要視されるべきである。

一方で、損害保険業務および共済・健康保険業務においては力強い商業的な活力が示された。

損害保険については、保険料収入が2011年度同期比で2桁成長(11%増)を達成し、合計84百万ユーロとなり、契約ポートフォリオは7%増加した。

共済・健康保険事業はあらゆる範囲で成功し、保険料収入は43%増、総売上は28%増加した。契約ポートフォリオも11%の増加となった。

2012年度第3四半期のグループの税引前利益に対する保険事業部門の寄与分は、55百万ユーロであり、前年度同期は4百万ユーロであった。

## 海外事業および「その他のネットワーク事業」

### 国際業務：BPCEエンテルナショナル・エ・ウトウル=メール(BPCE IOM)

BPCE IOMには、国際市場およびフランスの海外領土において営業を行うグループBPCEの子会社(ナティクシスを除く)が含まれる。

BPCE IOMの預り金は3.5%増加し、合計7.7十億ユーロとなった。かかる成長は貸借対照表上の預り金(+9.1%増)によって牽引されたものである。預り金の純流入額は、主に定期預金勘定に関して2011年度第3四半期比45.5%増加した。また法人セグメントにおいても、新規資金の流入促進が助長された(9.1%増)。

貸付金残高はすべての市場セグメントで増加(4.1%増)し、2012年9月30日現在、合計9.2十億ユーロとなった。その内訳は、個人向け貸付け(8.3%増)、短期信用供与枠(8.2%増)および不動産貸付(5.6%増)であった。貸付金残高の増加は、対法人顧客(2.8%増)より対個人顧客(5.9%増)において堅調であった。

2012年度第3四半期のグループの税引前利益に対する海外事業部門の寄与分は、18百万ユーロであり、2011年度同期末は33百万ユーロであった。

### その他のネットワーク事業：バンク・パラティヌ

バンク・パラティヌでは、新たな個人「富裕層」顧客獲得を推進したことによって顧客基盤が引き続き拡大し、年度初頭以降のかかる顧客分類において、2011年9月30日に終了した9ヶ月と比べて10.9%増加した。「収益が15百万ユーロ超の法人」である新たな事業顧客は、2012年9月30日に終了した9ヶ月の合計で8.7%増加した。

貯蓄預金は、特に法人セグメントの寄与(18%増)によって貸借対照表上の貯蓄が急増(15.5%増)したことを受け、合計で14.2百万ユーロとわずかに増加した。オフ・バランスシート貯蓄は3.2%とやや減少した。

貸付金残高のポジションは、厳しい市況において達成された優れた実績を反映し9.3%増となった。貸付金残高は(2011年9月の6.3十億ユーロから増加し)6.9十億ユーロに達した。個人顧客セグメントの需要不振は、法人顧客市場において短期供与枠が19.5%上昇し、また中長期貸付金も12.5%増加したことによる多大な寄与により、相殺された。

全体における新規貸付金の約定は、2012年9月30日に終了した9ヶ月において15.6%と大幅に増加し、うち法人顧客セグメントのみで39.4%を占めた。

グループの税引前利益に対する「その他のネットワーク事業」部門の寄与分は、2012年度第3四半期に23百万ユーロとなり、前年度同期の35百万ユーロから減少した。

### ホールセール・バンキング、投資ソリューションおよび専門的金融サービス(ナティクシスに含まれる事業ライン)

ナティクシスの中核事業ライン(ホールセール・バンキング、投資ソリューションおよび専門的金融サービス)における2012年度第3四半期の銀行業務純収益は、2011年度第3四半期比15.7%増加し、1,448百万ユーロとなった。うち、ホールセール・バンキング(24%増、686百万ユーロ)は債券取引およびストラクチャード・ファイナンス事業により、また投資ソリューション(16.5%増、479百万ユーロ)は米国の資産管理業務におけるダイナミズムにより、かかる2つの中核事業はその業績において大幅に収益が増加した。専門的金融サービス部門の業績は2.4%微減し、283百万ユーロとなった。

営業費用は961百万ユーロで、4.6%微増した。

費用/収益比率は2011年第3四半期比で合計7.1ポイント改善し、現在66.4%となっている。

リスクコストは大幅に増加(60.3%増)し、合計93百万ユーロとなった。

かかる3つの中核事業ラインを合計した税引前利益は、43.8%増加し合計397百万ユーロとなった。

上記事業による、グループの親会社の持分所有者に帰属する当期純利益に対する寄与分は、少数株主持分および法人所得税計上後193百万ユーロとなり、48.5%増相当であった。

当該中核事業ラインの2012年度第3四半期の株主資本利益率は12%であった。

ナティクス全体の親会社の持分所有者に帰属する当期純利益は、非営業項目を除外した場合、2012年度第3四半期について298百万ユーロ相当であり、2011年第3四半期比27%(P3CIの影響を除く)増加した。親会社の持分所有者に帰属する当期純利益は、2件の非営業項目(グループ自身の債務の再評価およびP3CIの業務に係る影響)によって大幅に影響を受けた結果、2011年度第3四半期比59%減の142百万ユーロとなった。

## 資本持分業務

資本持分業務は主に、コファースおよびネクシティの行う事業に関係している。この部門のセグメント情報は、2011年度に完了した資産の売却を考慮して、過年度についても同様に再表示されている。

資本持分業務部門によってもたらされた2012年度第3四半期の銀行業務純収益は424百万ユーロであり、これは2011年度第3四半期比で1.9%増に相当する。親会社の持分所有者に帰属する当期純利益は、26百万ユーロ相当であった。

### コファースの中核業務<sup>24</sup>

2012年度第3四半期に得られた信用保険事業の収益は、2011年度第3四半期比において5%増加した。

同期間は、ドイツおよびポーランドにおけるファクタリング事業が低迷している。一方で、上記事業の収益力は改善を続けている。2012年9月30日に終了した9ヶ月の税引前利益は、2011年度同期比4%増加し127百万ユーロとなった。

2012年9月30日現在のコンバインド・レシオは、(前四半期の78.5%に対し)81.9%であった。

損害率は2012年度第3四半期において57.5%であり、事業環境がさらに悪化した状況においても低い水準を維持している。2012年度第2四半期の損害率は、再保険業務からのプラスの影響が含まれたため、51.9%となった。

<sup>24</sup> 全世界における信用保険事業ならびにドイツおよびポーランドでのファクタリング業務。

### ネクシティ

ネクシティは、経済の不透明さによる不振が継続し市場が停滞するなか、第3四半期において良好な取引実績を示している。

子会社の受注は2011年度末と比較して3.4十億ユーロと安定しており、この数値は開発事業19ヶ月分に相当するものであった。<sup>25</sup>

2012年9月30日に終了した9ヶ月の収益は、2011年度同期比において合計で4.4%増加した。かかる成長は、主に商業不動産部門で達成された大幅な増加(2011年9月30日に終了した9ヶ月と比べて23%増)によってもたらされたものである。

住宅用不動産は、厳しい市況においても堅調に推移し、住宅および建設用地に係る正味の予約数の減少を、2011年9月30日に終了した9ヶ月間と比べて12%減に抑えたと公表することが可能となった。

<sup>25</sup> 12ヶ月ベースで計算された収益

### 計上方法に関する注記

グループBPCEの中核事業ラインに対する平均リスク加重資産の配分は、現在9%をベースとしている(2011年度は7%)。また、自己資本規制上のTier-1およびTier-2資本からの控除を伴う証券化業務に関する資本消費については、現在、中核事業ラインに帰属している。この新たな割当分を計上するため、関連数値は試算ベースで公表されている。

2011年6月および7月に売却されたユーロシックおよびフォンシアの資本持分は、「その他の事業」において再分類された。

2012年2月15日、グループBPCEは、(従前、商業銀行業務および保険事業部門に帰属していた)フォルクスバンク・インターナショナルAGに対する資本持分の一部を売却した。2011年12月31日、売却中の事業に対応する財務項目は「その他の事業」において再分類され、非売却事業は中核事業ラインの資本持分に帰属している。

クレディ・フォンシエールの貸借対照表の積極的な管理(有価証券の売却および債務買戻し)に関連した運営の影響については、2012年度第2四半期において「その他の事業」に計上されている。

グループBPCEのセグメント情報は、過去の報告期間についても同様に再表示されている。